

地球探究

(令和2年度)

東京都立南多摩中等教育学校

1 設定の目的

文理融合かつ探究学習を採り入れた科目として必履修科目「地理A」の代替として学校設定科目として「地球探究」を設置した。

2 授業の内容

平成31年度末に作成した「地球探究」のシラバスに記載された授業の内容は以下の通りであったが、1年間通常の教育活動が行えることを前提として予定したものであったために、臨時休業や分散登校があった令和2年度に実施した内容は大きく異なるものとなった。

シラバスからの変更点

- ・時差に関することと地図に関することは扱う時間がなかった。
- ・防災に関することは、宿泊防災訓練も実施されなかったために自然環境を学ぶ際に、併せて学ぶこととした。

	具体的な学習到達目標	学習内容／教材	特記事項・他
1 学 期	・規模や形成要因の違う様々な地形を取り上げて、その分布や形成要因などの基礎的知識や概念を習得する。 ・気温、降水量、大気大循環、海洋や水の循環を取り上げ、それぞれの地域の気候がかたちづくられた要因を考察し、理解する。 ・地形や気候と密接な関連を持つ第一次産業について学習し、人間の活動に自然環境がどのような影響を及ぼしているかを理解する。 ・地球上の位置と国家について学び、グローバル化が進んでいることを理解する。 ・期末考査後に、調べ学習のテーマを各自（二人一組）で設定する。	《学習内容》 ・自然環境 ・第一次産業 ・地球上の位置 ・国家とグローバル化 《教材》 ・プリント ・資料集 ・プレートテクトニクスや大気の大循環については、地学の内容を採り入れて学習する。 ・どうやったら2点間の距離を求めることができるか、経度から時差を求めるにはどうしたらよいか等について学習する。	・4月30日から5月1日にかけて、4年生対象の宿泊防災訓練の際に、その前後の時間で自然災害のメカニズムについて学ぶ。
2 学 期	・諸地域の生活文化や地球的課題について、最低限必要な知識を習得し、資料集にも載っていない最新の情報にも、さまざまな媒体を介して接しようとする態度を身に付ける。 ・自分の考えをまとめ、わかりやすく発表するために、機材を使用したプレゼンテーションの技法を学ぶ。	《学習内容》 ・世界の諸地域の生活文化 ・複雑にからみ合う地球的課題 《教材》 ・プリント ・資料集 ・2学期は二人一組の発表形式の授業を20時間組み込むことを考えており、最低限身に付けてもらいたい知識に関しては講義形式の学習で扱う。	

3 学 期	・毎年自然災害による被害が発生している日本の防災について学び、どうやって自分の身を守るか考える姿勢を身に付ける。 ・さまざまな時代の世界地図の読図により地球に関する認識の違いに気づき、人々の世界観の変化を理解する。 ・使用目的に応じて図法の異なる世界地図を使うことを理解する。 ・地図を用いた地域調査の技法について学ぶ。	《学習内容》 ・日本の自然環境と防災 ・地理情報と地図 ・地図と地域調査 《教材》 ・プリント ・資料集 ・GIS(地理情報システム)を利用してデータを地図上に表示する技術について学習する。	・1月17日、3月11日と大きな震災を引き起こした地震が起きた日が含まれる期間であり、マスコミでも防災について取り上げられることが多くなる。その内容も授業に採り入れていく。 ・前期課程の地域調査で使用した地図や発表に使用した地図を持っている生徒がいる場合には、その地図を持ってきて、どのような目的で使用したのかを確認する。
-------------	---	---	--

3 生徒による発表のテーマ設定について

学校が再開された最初の授業で授業の方針を説明し、1学期の期末考査までにどのようなテーマで発表するかを報告してもらうことにした。当初は二人一組での発表を考えていたが、分散登校等の影響で共同作業を進めることに支障が出る可能性も考えて、一人での発表とした。テーマについても、一人で自宅での作業が進めやすいように特に限定はしなかった。一人での発表としたことで発表に費やす授業時数が増えたことも、講義の内容が減った原因である。

4 発表の生徒による相互評価

生徒同士で評価してもらったが、回数を重ねるごとにあまり考えずにすべて「5」や「4」の評価をする生徒が増えた。発表者には、それぞれの項目の評価の平均とコメントの欄に記入された部分を氏名がわからないようにして渡すことにしていたが、「こうすればもっとよかった」という建設的なコメントが多く、みんなよく読んでいた。

今後はTeamsを利用して、Formsのアンケートフォームを配信する形にした方が集計作業は楽にできるものと思われる。教員も試行錯誤の状況にある。

5 教員の反省点

自宅でも探究活動ができるように一人で、テーマもあまり制限しないでの発表となったので、やや広がりすぎる内容となってしまう、なかには自分の興味のみで話を進めている生徒もいた。

来年度は人間の活動と自然環境の関りについて考えることを大きなテーマとして、国を選んで調べていくように指導したい。どこの国を対象とするかは、学年の生徒を対象にした国の認知度調査を行い、認知度の高い国の中から選んでもらうことを考えている。基本は二人組だが、在籍数が奇数のクラスもあるので、一人での発表も認めるようにしたい。

「地球探究」を設置するあたり、問題となると予想されていたことは、共通テストで「地理B」を選択する生徒への指導内容が不足するのではないかということであった。今年度は発表のテーマを制限しなかったため、地誌の内容が不足してしまった。6年次に開講される予定の自由選択科目で補っていきたい。来年度は系統地理の内容は担当者が講義を行って指導し、地誌の内容は生徒の発表と発表についての教員の講評で補えるようにテーマを設定していきたい。